

令和8年度富山県サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者実践研修

事前課題 回答の手引き

- ① 令和8年度サービス管理責任者及び児童発達支援管理責任者実践研修の演習では、受講者が各自提出した課題を基に、グループワークを行います。受講者は、必ず事前に実施し、期日までに事前課題を提出したうえで研修を受講してください。

A日程課題提出期限：令和8年10月1日（木）必着

C日程課題提出期限：令和8年11月19日（木）必着

※郵送又は電子メールでご提出ください。

これらの課題は、演習を行うにあたって必要になるものです。事前に提出してもらいますが、演習当日も回答の手引きと回答様式を1部ずつご持参ください。

○課題提出先

【郵送の場合】

〒930-8501 富山市新総曲輪1番7号富山県厚生部障害福祉課自立支援係 宛

※封筒に「実践研修事前課題 在中」と記載してください。

【電子メールの場合】

ashogai-fukushi@pref.toyama.lg.jp

※件名に「サービス管理責任者等実践研修事前課題」と記載してください。

事前課題 回答の手引き



- ② 事前課題は「回答の手引き」と「回答様式」に分かれています。回答の手引きには課題文や回答にあたっての留意事項を記載しているので、必ず参照してください。提出する際は、回答様式のみを提出してください。
- ③ この事前課題は、提出前にサビ児管に内容を確認してもらってください。研修当日にはグループで共有しますので、他の参加者に知られてもよい内容を考えて記載し、提出してください。
- ④ 提出期日に課題の提出がない場合、提出課題の内容に不備が多い場合、事例が提供できない場合、提出課題が受講者本人の作成ではないことが判明した場合等には、研修の受講を認めないことがあります。

課題①

基礎研修修了後から今回の受講までの業務を振り返ってください

- 基礎研修終了後、自分が事業所内でどのようなOJTを受けてきたか振り返ってください。
- また、自分の振り返りが終わった後、OJTを行なってもらったサビ見管にも書いてもらってください。

課題②-1

事業所がある市町村の「地域自立支援協議会」等について調べ、調査表に記入してください。

- ・事業所の上司や他部署の方に聞いても分からない場合は、市町村担当課に聞いてみましょう。

課題②ー 2

「事前課題：回答の手引き」の記入例も参考に、次の個人ワークに取り組んでください。

- ワーク①②は自由に記載してください。記入例はありません。
- ワーク③の記入例は次ページのとおりです。
- ワーク③をもとに、研修当日はグループワークを行います。

(1)テーマ（タイトル）は？

はじめの一步！ ～引きこもりについて考える部会～

(2)何をする？（内容）

- ・ 学生や自立訓練事業所の協力のもと、自宅からの参加OKのe-sports大会でつながりの機会を持てる企画、運営。
- ・ 地域住民や福祉課、健康課も参加おしゃべりサロン開催。
- ・ 当事者に頼ってもいい支援者がいることを知ってもらう。
- ・ あなたの〇〇教えて！外出、食事、スポーツで集まれ。
- ・ 楽しみが持て外に出るきっかけ、外部とのつながり、多職種連携につながる。

(1)テーマ（タイトル）は？

親亡きあとを考える ～将来設計部会～

(2)何をする？（内容）

- 〈学ぼう〉・施設の人や専門家と勉強会を行う。
↓
- 〈考える〉・利用者及び親の現状、悩みについて。
↓
- 〈体験〉・当事者とGHへ行く。
↓
- 〈発表〉・体験談
↓
- ・GH支援者側からの様子

さらに出た課題に対して、学ぼう・考える

課題③-1について

- 自分自身の経験や生きてきた中で思ったことや感じたことを記入してください。
- 悩む部分もあるかと思いますが、直感で感じたことを書いてみましょう。
- 研修当日に、グループワークで共有します。他の参加者に伝えてもよい内容を考えて記載してください。

課題③-2について

サビ管基礎研修では 水道橋久さんの事例を用いて、

- ①サービス担当者会議、個別支援会議の開催
- ②個別支援計画作成
- ③個別支援計画修正案作成

①～③の演習に取り組みました。

今回のサビ管実践研修では、基礎研修時から3年後の水道橋久さんの事例を用いて、個別支援会議の運営・個別支援計画修正の演習に取り組んでいただきます。

まずは次の資料を読んで、基礎研修時の水道橋久さんの事例概要を思い出してみましょう。

サビ管基礎研修時の事例の概要①

～サービス利用に至るまでの経緯～

- 水道橋久さんは、A市で2人兄弟の長男として出生。発語や歩行し始めるのが少し遅かった。小学校の1、2年生の時は普通学級に通っていたが、授業中落ち着きが無く、席を立てて教室内を歩き回わり、突然怒りだし友達に手をあげて殴ってしまうことがあり、小学校3年生からは情緒支援の特別学級に移った。小学校6年生の時に軽度の知的障害と判定を受けた。
- 中学は特別支援学校に進学。中学校での生活は、太鼓部に所属し顧問に根気よく教えてもらい部活動では楽しく過ごしていた。昆虫や木工にも興味をもっていた。久さんが中学校2年生の秋に両親が離婚。以後、父親と弟の3人暮らしとなった。その後、久さんは母親と1年に1～2回は会っている。
- 久さんは、特別支援学校の高等部を卒業し、製造部品を作る工場に就職。面倒見の良い上司が、わかるまで丁寧に教えてくれて、ときに叱咤激励してくれたことで、安心して働いていた。しかし、上司が変わってから「上司からの注意が怖い」「仕事が集中して取り組めない」などを訴え、退職して自宅でのひきこもり状態の生活になった。

サビ管基礎研修時の事例の概要②

～サービス利用に至るまでの経緯～

- 久さんが退職して半年後、父親が通勤途中で交通事故にあい大けがをして、仕事ができなくなり生活保護となった。父親から「久の面倒をみていくことができない。何とか施設に入れてもらえないか」と市役所に相談があった。久さんも「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」ので「一人暮らしに向けた準備をしたい」し「すぐに働く自信はないのでそのために力をつけたい」とグループホームを利用しながら、就労継続支援B型事業所に通所することを希望した。
- 久さんは、相談支援事業所にサービス等利用計画案の作成を依頼し、相談支援事業所がアセスメントを実施、計画案を作成し久さんに提示し、了承を得たので計画案をA市福祉課に提出した。それを受けてA市福祉課は共同生活援助と就労継続支援B型の支給決定を行った。
- サービス担当者会議、個別支援会議を経て、久さんはグループホーム「ピアハウス」と就労継続支援B型「スマイル」を利用することになった。それぞれの事業所は久さんの思いを踏まえ、将来自立した生活ができるよう個別支援計画を作成した。

サビ管基礎研修時の資料

06-02 サービス等利用計画

利用者氏名	水道橋久	障害支援区分	区分 3	相談支援事業者名	相談支援センターひまわり
障害福祉サービス受給者証番号	000XXX##H	利用者負担上限額	0	計画作成担当者	六本木はやと
地域相談支援受給者証番号	000XXX???	通所受給者証番号	000XXX\$\$\$		
計画作成日	令和5年6月5日	モニタリング期間(開始年月)	令和5年8月	利用者同意署名欄	

利用者及びその家族の生活に対する意向(希望する生活)	久さんは、特別支援学校の高等部卒業後一般企業で働いていたが、「上司の注意が怖い。仕事に集中できない」と言って退職した後はひきこもりがちな生活をしてきた。昨年、父親が交通事故で右半身に後遺症が残り、久さんの面倒を見られなくなった。久さんは、「父親に世話になったので迷惑をかけたくない」「3年後には普通に仕事をして立派な男になりたい」「自分のことは自分でできるようになりたい」という希望を持っているが、「今は朝も起きられない」「働く自信もない」のでそのための「準備をしたい」と思っている。また、「困りごとは相談したい」と言う気持ちがあり、一人暮らしに向けた準備をするためのグループホームの利用と就労に向けて準備をするための就労継続支援B型の通所を希望している。また、「昆虫の話ができる友達が欲しい」と思っている。 父親は「私も体が不自由になってしまい久の面倒はみられません。久には福祉サービスを利用して自立してほしい」と言っている。
総合的な援助の方針	グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみを見つけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。
長期目標	① グループホームでは、掃除や洗濯、調理等の生活していく上での力をつける。 ② 就労継続支援B型事業所では、仕事を続けていくうえでの自信をつける。 ③ 相談する力をつける。 ④ この間に見つけた昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみを継続する。
短期目標	① グループホームの日常生活に慣れる。 ② 就労継続支援B型事業所の作業に慣れる。 ③ わからないことや困っていることを相談する。 ④ 昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて相談する。

優先順位	解決すべき課題(本人のニーズ)	支援目標	達成時期	福祉サービス等		課題解決のための本人の役割	評価時期	その他留意事項
				種類・内容・量(頻度・時間)	提供事業者名(担当者名・電話)			
1	グループホームで一人暮らしに向けた準備をしたい。	グループホームの生活に慣れて、掃除や洗濯、調理等自分でできることを増やす。	12ヶ月	グループホーム 毎日	ピアハウス サービス管理責任者 川崎 生活支援員 名古屋 世話人 豊田	スケジュールを覚えて生活リズムを身に着ける。 掃除や洗濯、調理の仕方は、世話人さんに教えてもらいます。	3ヶ月	*朝なかなか起きることができない
1	今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。	いろいろな作業経験を積んで得意なことを見つける。	12ヶ月	就労継続支援B型 月～金	スマイル サービス管理責任者 本田 生活支援員 鈴木	就労継続支援事業所での作業を通して経験を増やします。	3ヶ月	*朝なかなか起きることができない
3	困りごとは相談したい。	生活のこと、仕事のことで困ったり、不安だったりを相談できるようになる	6ヶ月	グループホーム 毎日 就労継続支援B型 月～金 相談支援事業所 随時 病院 4週間に1回 土曜	ピアハウス 豊田・名古屋・川崎 スマイル 鈴木・本田 ひまわり 六本木 西村病院 西村	グループホームで一日の出来事を報告します。 仕事については、就労継続支援事業所で相談します。 服薬をして定期的に通院します。	1ヶ月	
4	楽しみをみつけない。	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴きます。	6ヶ月	グループホーム 就労継続支援B型 相談支援事業所	ピアハウス 川崎 スマイル 本田 ひまわり 六本木	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話を聴かせてください。	3か月	

サビ管基礎研修時の資料

08 ニーズの整理表（共同生活援助）

グループ

利用者名 水道橋 久 さん

No	サービス等利用計画で整理された解決すべき課題（本人のニーズ）	初期状態の評価 （利用者の状況・環境の状況）	支援者の気になること・推測できること（事例の強み・可能性）	願いや希望を満たすための具体的な到達目標
	グループホームで一人暮らしに向けた準備をしたい。 今は働くことに自信がないのでそのための力をつけたい。 困りごととは相談したい。 楽しみをみつけない。	知的障害（軽度）障害支援区分3 小学校3年生から情緒支援の特別学級に移り、中学校は特別支援学校に進学。中学進学の際、児童相談所で軽度の知的障害の判定を受けた。 特別支援学校高等部を卒業後、製造部品の工場に就職。面倒見の良い上司のもと1年間働いたが、上司が変わってからは、不安を訴えて退職。以後、引きこもりがちな生活をしてきた。 困りごとがあっても相談できない。面倒見の良い人がいると素直になって長続きする。 趣味は、昆虫の図鑑を見ること、手先が器用なので木工が好き。お菓子やケーキなどの買い物が好き。	自立した生活のイメージは持てていない様子だが、「いずれ自分のことは自分でできるようになりたい」と思っている。 「今は働くことの自信はないので力をつけたい」「1人でコツコツと集中できる作業が好き」と就労意欲はあるが、自信を失っている。「朝もなかなか起きられない」ことを自覚している。 相手の話は、なかなか理解はできない。丁寧に教わると安心できる。 好きなことは集中して取り組むことができる。「一緒に遊ぶ友達が欲しい」「昆虫の話ができる友達ができたなら最高」と思っている。	○ 掃除や洗濯、調理等、自分ができることを増やすことができる。 ○ 朝、起きる時間を決めて自分で起きて仕事に行けるようになる。 ○ 生活上のわからないことや困りごとを、相談できるようになる。 ○ 楽しみを見つけることができる。

サビ管基礎研修時の資料

グループホームピアハウスの概要

- 共同生活援助事業所(介護サービス包括型) *夜間は連絡体制のみ
- 入居定員4名 現在 男性4名利用中
- 建物 戸建住宅 5LDK
- 居室4室(8畳) 世話人室 リビング(共有スペース)、お風呂、トイレ、洗面所、キッチン
は共有
- 立地環境 住宅地の一角にあり、すぐ隣には公園がある。歩いて5分の所にコンビニ、
スーパーなどがあり、駅までも徒歩15分程度。
- サービス管理責任者：川崎まさお

*普段は別にある事務所にいて、他に2ヶ所のホームも見ている。
- 世話人：豊田のぞみ 月～金 6:00～9:00、15:00～20:00(1日計8h勤務)
- 生活支援員：名古屋ひかり 土・日 8:30～17:30(8h勤務)

サビ管基礎研修時の資料

Ⅰ 共同生活援助事業所（介護サービス利用型）で行う個別支援計画（案）

利用者氏名： 水道橋 久さん

作成年月日 R〇〇 / 6 /

【総合的な援助の方針】

グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみを見つけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。

【到達目標】 掃除や洗濯、調理など生活していく上での力をつけて、自分のことは自分でできるようになることを目指す。

【短期目標】 ①グループホームの生活に慣れる。②決まった時間に起きる。③困りごとを相談する。④生活上の楽しみを見つけるための相談をする。

【長期目標】 ①掃除や洗濯、調理などの生活していく上での力や生活リズムを身に付ける。②わからないこと困りごとや相談して解決できるようになる。③この間にみつけた生活上の楽しみを続ける。

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	担当者	優先 順位
自分で出来る事を増やすことができる。	掃除や洗濯、調理など、まずは出来る事からやってみます。わからない時には、豊田さん、名古屋さんに相談します。	調理器具の使い方や料理の作り方、洗濯機の使い方や干し方、掃除機のかけ方などを丁寧に教えます。	毎日	豊田（世話人） 名古屋 （生活支援員）	3
朝、起きる時間を決めて、自分で起きて仕事に行けるようになる。	目覚ましをかけて自分で決められた時間に起きるようにします。	目覚まし鳴り続けていて、起きてこない時には、職員が声を掛けさせてもらいます。 起きられない時が続くようであれば眠前薬の時間を相談します。	月～、金の朝7時頃	豊田（世話人） 名古屋 （生活支援員）	2
生活上のわからないことや困りごとを相談できるようになる。	わからないことや困りごとは早めに相談します。まずは、毎日の出来事を豊田さん、名古屋さんに話すことから始めます。	わからないことや困りごとはいつでも話を聞きます。 まずは、毎日の出来事について話を聞きます。	わからない時、困った時はいつでも 毎日 夕方 5時頃	豊田（世話人） 名古屋 （生活支援員）	1
楽しみを見つけることができる。	昆虫等の趣味や、友だち活動等の生活上の楽しみについて話をしてください。	久さんが、楽しいと思うことを一緒に探したいと思います。	第2・第4土曜日 朝 10時	川崎（サビ管）	2

確認年月日： 令和 年 月 日

利用者氏名

印

サービス管理責任者氏名

川崎 まさお

印

就労継続支援B型事業所「スマイル」の概要

事業所所在地の環境	人口は約10万人、人口の約30%は65歳以上の高齢者であり、人口の5%にあたる約5千人が障害者手帳を保持している。 県庁までは自動車で1時間、都市圏までは電車で1時間程度かかる。 産業は、新都市開発による工場誘致により第二次産業が増加傾向にある。 公共交通機関は地元の鉄道、バスがあるが、自動車が移動手段の中心である。	
地域の社会資源の状況	障害福祉サービス事業は、市内の社会福祉法人やNPO法人により、就労継続支援A型・B型、生活介護、生活訓練、就労移行支援の各事業が整備されている。 相談窓口として、障がい者相談支援センター1ヶ所、特定相談事業所8ヶ所があり、障害者就業・生活支援センターは隣市にある。	
地域の地場産業	自動車産業が盛んな地域であり、部品の製造をはじめとした下請け企業が多い。以前は、家内工業の工場がたくさんあり、職親制度等も利用して障害のある人の雇用がされていたが、最近ではほとんどが閉鎖・倒産している会社が増えている。	
事業所の概況	多機能型事業所 就労移行支援事業 定員12名 就労継続支援B型事業 定員20名 現在の利用者は、身体・知的・精神など多様な障害種別の人が利用している。 久さんが利用を予定しているグループホームからはバスで10分（徒歩ならば45分かかる）の距離である。	
職員構成	管理者1名（60代女性） サービス管理責任者1名（本田一郎：40代男性） 職業指導員3名（40代女性、60代男性、20代女性） 生活支援員2名（30代女性、30代男性） 就労支援員1名（30代女性）	
日課	*平日 9:30～16:00 *土日祝日は休所	
主な作業内容	作 業 内 容	工賃の状況
	カフェ（接客、皿洗い、調理補助等）	時間 200円～400円
	組み立て作業	時間 200円～400円
	施設外就労活動（近所の運送会社での倉庫内作業・袋詰め作業）	時間 400円～580円

サビ管基礎研修時の資料

12 就労継続支援B型事業所で行う個別支援計画（案）

利用者氏名： 水道橋久さん

作成年月日 R / /

【総合的な援助の方針】

グループホームでは生活上の様々な経験を積み、就労継続支援B型では、仕事を継続するためのコツを身につけて自信をつける。また、生活上のことを相談できる力をつけることや、生活上の楽しみを見つけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標が達成できるよう支援する。

【到達目標】 自分のやりたい仕事、自分に合う仕事をみつけ、3年後には一般就労をして立派な男になる。

【短期目標】

- ①作業手順を覚えて、作業に慣れる。②バス通所にチャレンジする。
- ③困ったり、不安なことがあれば、すぐに相談する。

【長期目標】

- ①働くための力をつけるために様々な作業体験を積んで自信をつける。
- ②困ったり、不安なことを相談して解決できるようになる。

具体的な到達目標及び支援計画等

具体的到達目標	本人の役割	支援内容 (内容・留意点等)	支援期間 (頻度・時間・期間等)	担当者	優先 順位
自分の得手を知り、できることを増やして、働く自信を取り戻すことができる。	・自分の得手・不得手を分析するために様々な作業を体験しましょう。 ・まずは、1人でコツコツと集中できる組立作業に取り組みましょう。	・様々な作業体験ができるような就労アセスメントのプログラムを作ります。 ・少人数のグループで、得意な組立作業を体験できるようにします。	月～金 9:30～16:00	松阪 (職業指導員)	1
遅刻をせずに事業所に通所できる。 バスを利用した通所できるようになる。	・自分で決めた時間に起きるようにしましょう。 ・バス通所にチャレンジしましょう。	・バスの乗り方を覚えるために生活支援員と一緒にバスに乗降します。乗り方を覚えたら、一緒にバスに乗降できるようにバス停で見守りをします。 ・ご希望がある時は、グループホームのサビ管や世話人と連絡を取り合い、支援することができます。	月～金 8:45～9:15 16:30～17:00	鈴木 (生活支援員) 本田 (サビ管)	2
困ったり、不安なことがあれば、すぐに相談できるようになる。	・困ったことや心配事がある時は、スタッフに伝えましょう。	・毎週、面接をする時間を作りますので、何でも話して下さい。 ・何が困ったことや心配事はあったら時にはいつでも話を聞きます。	面談:毎週水曜日 13:00～ 困った時・不安な時はいつでも	本田(サビ管) 松阪 (職業指導員) 鈴木 (生活支援員)	3
楽しみを見つけることができる。	好きな昆虫図鑑のこと、友達関係のこと等話をしてください。	・楽しみを見つけるために、スタッフと一対一で話ができる時間を作ります。	第3月曜日 9:30～10:00	鈴木 (生活支援員)	4

確認年月日： 令和 年 月 日

利用者氏名

印

サービス管理責任者氏名 本田 一郎 17 印

課題③-2について

ここからは、基礎研修時から3年が経った水道橋久さんの事例概要です。

皆さんは、共同生活援助（GH）「ピアハウス」のサービス管理責任者川崎さんとして、久さんの個別支援計画修正案を作成します。

水道橋久さんの現在の様子や周りの環境について、次からの資料を確認のうえ、事前課題：回答様式の課題に取り組んでください。

実践研修 事例の概要①

『水道橋久さん 3年前から現在までの障害福祉サービス利用の状況』

《共同生活援助（GH）「ピアハウス」》

- 3年前に比べると、家事全般は自分でできることが増えた。
- 2024年1月ごろからは、就B「スマイル」での仕事を頑張っているせいか動きが緩慢であったり、促しの声が必要なことも増えていた。
- 朝も起きられず世話人に起こしてもらうことが増えていた。
- 世話人の豊田さんは久さんの様子を心配していた。（豊田さんは2024年3月末に退職。）
- 2024年7月、精神病院を退院した日野さんが新たに入居した。久さんと日野さんは一緒に過ごしていることが多い。

《就労継続支援B型「スマイル」》

- 早起きが苦手なことを考慮し、久さんには遅くとも昼食までに通所するよう伝えていた。この利用時間設定にするとスムーズに通所ができるようになった。カフェでの仕事に自信が持てるようになり、接客、皿洗いなどを精力的にこなしていた。
- いつかは一般就労をしたいと言っており、2023年10月頃からは就Aへの移行を希望していた。

《就労継続支援A型「えがお」》

- 2024年2月、GH「ピアハウス」の隣町にある就労継続支援A型「えがお」に空きが出たとの情報が入り、急遽見学と体験利用を行った。
- 本人の意向も確認したうえで、2024年3月から就A「えがお」を利用することになった。（11:30～16:00までの3時間半勤務 通所日：火・水・木・金・日 休日：月・土）
- 順調に通所できており、久さんは月給が増えたことを喜んでいる。

【GH「ピアハウス」職員の状況】

- これまで久さんを担当していた世話人の豊田さんが2024年3月末で退職した。4月から新しい世話人の岡崎さんが久さんの担当になった。
- 引継ぎの際にサビ管の川崎さんから個別支援計画書等の情報は共有されていたが、世話人の岡崎さんは日々の業務に追われて、久さんへの細かい配慮（言葉遣いや態度等）が行き届かない状態であった。個別支援会議にも参加できていなかった。
- GH「ピアハウス」全体で見ても、職員の対応にバラつきが見られ始めていたが、サビ管の川崎さんも同じく業務に追われ、的確な指示や業務改善も行えていなかった。

【世話人岡崎さんから久さんの様子についての報告】

- 4月当初はピアハウスに帰ってきてからも、A型で働ける喜びからか、私にもいろいろと話してくれましたが、最近は久さんも疲れているようで会話は少ないです。
- 日課の家事については、最近はやり残して翌日に回してしまうこともあり、私が声掛けをしてもやらない時もありました。
- 日野さんとリビング（共有スペース）で過ごしていることが多く、二人で楽しそうに話している姿をよく見ます。ただ、たまに悲しそうな顔や怒った顔をしているので「大丈夫ですか？」と声をかけますが、『大丈夫だよ！』返答したので、特に対応はしてません。
- つい最近私に『話がしたい』と本人が言ってきたので話を聞くと、『一番最初の給与は3万円だったが、今は6万円くらいもらえているので、自分の目標である、一人暮らしをしたいと思っている。次の休みの日に一緒にアパート探しをしてほしい』と言ってきました。この話をした後くらいから日野さんも含め、ピアハウスの利用者に『もう俺は大丈夫だから、一人でやっていけるから』と言うようになりました。

実践研修 事例の概要③

【サビ管川崎が気になるところ】

- ・ 久さんは以前に就B「スマイル」で働いていた時より疲れているのではないかな？
- ・ 日課の家事のやり残しはどの程度かな？
- ・ 喜怒哀楽のばらつきがあるが心身の状態は？
- ・ 一人暮らしに気持ちが向いているが・・・
- ・ また、担当の岡崎さんとの関係はうまくいっていないのではないかな？

【現在久さんのピアハウスにおける支援目標】

総合的な援助の方針	グループホームでは生活上のさまざまな経験を積み、就労継続支援A型では自分で決めたことを守り、自信をもって仕事をする。また相談できる力をつけることや楽しみを見つけることで、「自分のことは自分でできるようになる」という目標を達成できるように支援する。
長期目標	①掃除・洗濯・調理など調理のレパートリーを増やす。 ②分からないこと、困っていることは相談し解決できるようになる。 ③余暇の時間を楽しみたい。（休みの計画を立てる）
短期目標	①決まった時間に起きる。 ②担当と話をする。

⇒このような状況のなか、久さんの個別支援計画見直しの時期をむかえます

課題④ 助言指導について

- 回答様式にも書いてありますが、以下の点に気をつけて記入してください
 - 実際に、自分が職場の中で感じたことを書いてみてください。
 - Cのこんなことがありましたについては、①～④の中から1つ選んで書いてみてください。
 - Dについては、自分が助言指導をしたら、どのようにアプローチするのか考えて書いてください。
 - 自分の事例は2分ほどで説明していただく予定です。
2分で話しができるようにまとめてください。

課題④

職場の方を題材に、助言指導の演習を行います。

あなたが、助言指導をしてみたい人を1名あげてください。これが演習の題材になります。

記載例

A. 職員のニックネーム

ジッセン くん

B. どんな人？

○得意(ストレングス)

若い 体力がある 元気
休まない 声が大きい
熱意がある 動きが早い

○不得意

思い込みが強い 敬語
じっとしてること
勉強会 書類を書くまとめる

例として全て記入してありますが、
Cは全て書く必要はありません。

C. こんなことありました。

①支援者同士のトラブル

勝手に判断。報告連絡相談が苦手。
一人で解決しようとしてしまい、空回り。
意見が強く、強引に進めてしまう。

②利用者さんとのトラブル

利用者さんの気持ちに寄り添うことができず、支援の押し付けになっている。利用者さんからジッセン君が嫌だと不満があがっている。

③保護者とのトラブル

熱心なあまり、家庭に要求することが多い。保護者はできないと言えず、本音が言えない。できない保護者が落ち込んでしまう。

④他事業所とのトラブル

批判的。利用者Tさんが混乱しているのは、併行利用している他事業所の対応が悪いせいだ、と思っている。そのことを保護者にも伝え、保護者から他事業所にも伝わり、不愉快な思いをさせてしまった。

D. 『C. こんなことありました』の内容について、あなたがこれからしてみたいアプローチ（助言・指導）を書いてください。

選んだ項目：④他事業所とのトラブル

- ・まず注意を促す
- ・二人で話す機会を持ち、ジッセン君の思いを聴く。
- ・ジッセン君の〇〇がいけないと批判的に思っていることはなぜか分析をする。
- ・実際、他事業所でどんな支援をしているのか見学に行ってみる。
- ・ジッセン君と自分と利用者Tさんで話をする機会を持ち、他事業所についてTさんの思いを聴く。
- ・会議で、いろんな人の意見やアイデアを聴く。

課題⑤ 事例を作成してください。

- 回答様式にも書いてありますが、以下の点に気をつけて記入してください
 - ご本人（利用者）名については、必ず仮名（ニックネーム）をつけてください。
 - 提出理由については、自分（あなた）が困っていることの記入をお願いします。自分（あなた）が支援をする中で、悩んでいる事や困っている事を書きます。
 - 固有名詞は書かないでください（例：A病院、B事業所、C学校など）

★ご本人（利用者）が困っている事ではありません。

- ご本人（利用者）の生活に対するイメージについては、自分（あなた）が理解している生活を書いてください。
- 本人（利用者）の言葉や言動については、事実を書きましょう。

※可能な限り1枚にまとめるようにしてください。

※記入にあたっては別紙記載例も参考にしてください。

最後に…

OJTをしてもらったサービス管理責任者や児童発達支援管理責任者の方に下記1～3のことをお願いをしてください。

1. 実践研修受講にあたり、受講生が基礎研修終了後より、どのようなOJTを行なってきたのか記載してください。
2. 事前課題の回答に誤字脱字や不備がないかを確認してください。
3. 事業所として、何を学んで来て欲しいかカリキュラムを見て受講生と話をして伝えてあげてください。
その内容をコメント欄に記載してください。

科 目	内 容・目 的	時間数
1. 障害福祉等の制度に関する講義（１時間）		
障害者福祉施策及び児童福祉施策の最新の動向（講義）	・障害者福祉施策及び児童福祉施策の最新の動向について講義により理解する。それにより、利用者の置かれている制度的環境の変化を認識する。	60分
2. サービス提供に関する講義及び演習（6. 5時間）		
モニタリングの方法（講義・演習）	・事業所のモニタリングについて、サービス等利用計画等との連動性を念頭に入れながら、モニタリングの視点・目的・手法等について講義により理解する。事例を通じて、モニタリングの演習を行い、その手法を獲得する。	120分
個別支援会議の運営方法（講義・演習）	・個別支援会議の意義、進行方法、行うべき事項（個別支援計画作成時、モニタリング時）等について講義により理解する。 ・個別支援会議における合意形成過程について、模擬個別支援会議の実施体験演習を通じて、サービス管理責任者等としての説明能力を獲得する。 ・模擬個別支援会議の体験を基に、個別支援会議におけるサービス管理責任者等の役割についてグループワーク等により討議し、その役割についてまとめる。	270分
3. 人材育成の手法に関する講義及び演習（2. 5時間）		
サービス提供職員への助言・指導について（講義・演習）	・サービス提供職員への支援内容、権利擁護・法令遵守等に関する確認や助言・指導を適切に実施するための方法等について講義により理解する。 ・講義を踏まえて、受講者が事業所において実施している助言・指導業務について、グループワーク等により振り返るとともに、今後の取り組み方について討議する。	90分
OJTとしての事例検討会の進め方（講義・演習）	・事例検討の目的、方法、効果等について講義により理解する。また、事例検討会の実施がチームアプローチの強化や人材育成にも効果を有することを理解する。 ・受講者が持ち寄った実践事例を基に、事例検討会を行い、体験を通して事例検討会の進め方を習得する。	120分
4. 多職種及び地域連携に関する講義及び演習（3. 5時間）		
サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割（多職種連携や地域連携の実践的事例からサービス担当者会議のポイントの整理）（講義）	・多職種連携や地域連携の実践事例を活用し、サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者等の役割（相談支援専門員との連携や関係機関との連携方法）について講義により理解する。	50分
（自立支援）協議会を活用した地域課題の解決に向けた取り組み（講義）	・（自立支援）協議会の意義、目的、活動内容等について講義を通じて理解する。 ・サービス管理責任者等の業務を通して見いだされる地域課題を解決するための（自立支援）協議会の活用について実践報告等により学ぶ。	50分
サービス担当者会議と（自立支援）協議会の活用についてのまとめ（演習）	・サービス担当者会議や（自立支援）協議会に関する講義を踏まえ、多職種連携や地域連携の重要性、意義、ポイントについてグループワーク等による討議をとおして、連携のあり方についてまとめを行う。	110分
合計時間数		14. 5時間

実践研修の目的の キーワード

・制度的環境の変化を認識

・モニタリングの視点・目的・手法等

・個別支援会議の意義、進行方法、行うべき事項
・合意形成過程、模擬個別支援会議、説明能力
・役割についてグループワーク

・助言・指導を適切に実施
・グループワーク等により振り返り
・今後の取り組み方について討議

・事例検討の目的、方法、効果等
・チームアプローチの強化、人材育成
・持ち寄った事例を基に、事例検討会の進め方

・多職種連携や地域連携の実践事例
・サービス担当者会議等におけるサービス管理責任者・児童発達支援管理責任者の役割

・協議会の活用、実践報告

・グループワーク、連携のあり方

1. 障害福祉等の制度に関する講義

2. サービス提供に関する講義及び演習

3. 人材育成の手法に関する講義及び演習

4. 多職種及び地域連携に関する講義及び演習